



駅前広場リフォームのポイント

～あしたのまちと駅前広場のために…～

はじめに

駅前広場は、基幹交通機関である鉄道と地域とを結びつける重要な都市基盤施設であり、多様な機能が求められるとともに、地域のニーズにも的確に応える必要性を持つ都市の拠点空間と考えます。日本での駅前広場の歴史は、明治5(1872)年9月12日、日本最初の鉄道が新橋～横浜間に開通し、これに伴い、新橋、品川、川崎、鶴見、神奈川、横浜の各駅が開設され、駅前広場の歴史が始まりました。以来、時代の流れに沿ったそれぞれの機能、ニーズにあわせた各種の駅前広場が計画・構築されてきました。

財団法人都市づくりパブリックデザインセンター・アーバンリフォーム研究部会では、かねてより都市を形成する拠点空間として「駅前広場」の重要性を認識し、新たな視点で調査・研究を進めてまいりました。平成17年にはPart1として「駅前広場リフォームノート」を発刊し、広場のあり方、リフォームの研究等を述べてきました。この度、Part2として「駅前広場リフォームのポイント」を研究成果としてまとめることとなりました。Part2では特に「利用者の視点」を注視し「駅の種類」・「視点の設定」などを行い報告書と致しました。また、利用者調査においても十分な回答数を確保し、より実態に即したまとめとしました。

今日、駅前広場は、施設利用者の交流の場、にぎわいの創出や市民の休息の場、都市の景観向上の場、さらには将来の高齢化による公共交通利用、地球環境整備による公共交通利用の促進など、駅周辺の整備は更なる見直しを求められています。今後進められるコンパクトシティ、集約都市などの施策もこれに係わるものと考えます。

これらの見直しに対し本書「駅前広場リフォームのポイント」が利用者の求める駅前広場の報告書として、今後まちづくりに取り組まれる方々の一助になれば幸いと考えております。

財団法人都市づくりパブリックデザインセンターでは、今後とも自主研究部会を通してより良いまちづくりの変革の一翼を担って行ければと努力して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

財団法人都市づくりパブリックデザインセンター
アーバンリフォーム研究部会

目 次

はじめに

第Ⅰ章 本書の概要	5
1 背景	6
2 目的	6
3 研究の経緯と研究の柱	7
4 本書の使われ方	8
第Ⅱ章 駅前広場リフォームのあり方	9
1 駅前広場の捉え方の分類	10
1-1 駅種の考え方	10
1-2 4つの視点の考え方	11
2 駅前広場のあり方で留意すべき動向	12
2-1 駅種に関して	12
2-2 4つの視点に関して	13
3 リフォームコンセプトと考察	14
3-1 リフォームコンセプト一覧	14
3-2 考察…利用者の視点から捉えたリフォームのあり方	18
4 リフォームコンセプトの展開	19
4-1 バリアフリーの視点	19
4-2 景観の視点	37
4-3 にぎわいの視点	55
4-4 維持管理の視点	73
第Ⅲ章 研究の流れと結果および分析	91
1 研究の考え方	92
1-1 考え方のフレーム	92
1-2 作業の流れ	93
2 利用者の意向調査	94
2-1 アンケート調査概要	94
2-2 4つの視点のキーワード設定	94
2-3 駅種分類の設定	95
2-4 調査用紙と設問のグループ化	96
3 調査結果とコンセプトの設定	98
3-1 属性の基礎集計	98
3-2 主要要素傾向の結果とその活用	99
3-3 駅種とカテゴリー毎のコンセプトの設定	100
発刊に寄せて	103

発刊に寄せて



第9回研究部会にて（'07.06.12）

●本書は平成14年から4年間の調査・研究結果の最終版として完成されました。今まで、関わった28社延べ98人の部会員各位が、「駅前広場—利用者の為の復権」を意中に秘め、実態調査も踏まえながら、熱心に議論し纏め上げたものです。駅前広場関係各位の、必ずや期待に沿えるものであると確信をいたします。

アーバンリフォーム研究部会長 (株)INAX 伊藤貞二

●日頃、何気なく利用している駅広だが、なんとなく使いやすい駅広と、なんとなく使いづらい駅広がある。本書は、一般の利用者が感じる、その「なんとなく」に着目している。今後は「なんとなく」を大切にされた感覚的な駅広整備が増える事を期待します。

岩崎電気(株) 遠藤哲夫

●駅前広場は街の玄関口であり、象徴的空間を形成する。利用する人々が「安心」「安全」「快適」な空間あるいはアットホーム的なほっと一息空間、たまり空間など色々なドラマが出来うる空間であり、あらゆる観点、立場を考慮して整備する必要性を再認識しました。

(株)キクテック 落合鉄也

●アーバンリフォーム研究部会では、利用者の視点で様々な駅を調査し意見交換をしました。日常業務では計画者の視点で物事を見ていましたが、この研究部会で実際に足を運んで体感することで、多角的に物事を見ることの重要性を実感しています。

(株)コトブキ 難波満・島田一郎

●前回のリフォームノートから一歩進め、より具体的にまとめました。実際の現場で有効に利用されると幸いです。

(株)ジーエス・ユアサライディング 京藤伸弘

●このリフォームノートは計画者やメーカー視点だけでなくユーザーである利用者にアンケートをとり、分析する事でユーザー視点に立った冊子が出来上がったことに意義があると考えます。広く活用頂き、利用しやすい駅前広場ができることを願っております。

積水樹脂(株) 松村章・北野充洋

●アーバンリフォームの活動を通して、駅利用者の主観で判断された駅広の良し悪しが、いろいろな駅広を構成する要素の組み合わせにより成り立っていくことがわかり大変勉強になりました。ちなみに私が毎朝通勤で使う駅には駅広がありません。悲しい…。

太平洋プレコン工業(株) 馬場卓

●この研究部会で、本冊子を纏めるに当たり主に関東を中心として、大小100駅以上の「古い駅」「新しい駅」を調査し、その一部を自分の目で見、調査した事が大きな財産となり、今後の仕事を通して、サステイナブル社会の構築に貢献が出来ればと思います。

テック大洋工業(株) 小塚文夫

●駅前広場は、私達の日常生活に大いに関係しているので、研究というより利用者の視点でみるということは、取り組み甲斐のある課題でした。利用しやすい・訪れてみたい駅前広場があるということは、その街の魅力のひとつであると信じて、提案いたします。

東芝ライテック(株) 大橋秀治

●利用者視点のアンケートを分析できたのは興味深く、多くを得ました。ありがとうございます。メーカーとして舗装材に関わる機会が多いですが、福祉のまちづくりの観点から基準が設けられる舗装材に、利用者は不具合が無ければ無関心の様子。尤もでした。

日本興業(株) 石井美紀

●駅前広場は、私たち生活の中で利用する機会が多く、その中でなんとなく見過していることがあると思います。この研究部会は利用者の視点から駅前広場に着目して、心地よく利用しやすい駅前広場を研究しました。ご活用を期待いたします。

日本鉄塔工業(株) 小野田悟

●駅前広場は、その町の市民生活・文化・歴史等が窺え興味有る研究テーマでした。高齢化社会を見据え市民が安全快適・機能的な生活を営む為には？リフォームの視点で各景観事業のプロ集団の中で調査・研究出来た事は、大変有意義で今後に生かしたいと思います。 (株)保安サプライ 大久保弼国

●駅は人が出会い、心のふれあいがあり、さまざまな人生のドラマが演じられる舞台です。より良い駅広のための共同研究は、街と人々の将来への希望のまなごしを共有することでもあります。ものづくりのプロ達の研究成果が役立ってくれることを祈ります。 前田環境美術(株) 水野孝

●この研究会の良かったことは、メーカーという枠組みから出て、みんなで新しい環境を生み出すベクトル合わせと創造であった。テーマの駅広のありようを利用者視点で求めるプロセスと、理解しがたい主成分分析による評価は、大変勉強になりました。 松下電工(株) 豊留孝治

●やっと第2弾が完成しました。部会のテーマである「利用者の視点での駅前広場リフォーム」を強化するため、一般の方々に駅前広場についてアンケート調査してまとめた力作です。より精度が高くなっていますので、是非ともご活用してください。 (株)MARUWA SHOME I 谷原良寛

●この冊子は udc としての長年に渡る駅前広場の再整備に係わる検討の「総まとめ」となりました。利用者・市民のアンケートをもとに、専門家の視点による再整備に係わる実効性ある所見が多数載せられていますので是非ともご活用をお願い申し上げます。 三菱地所(株) 遊佐謙太郎

●駅を分類しカテゴリー（バリアフリー、景観、にぎわい、維持管理）ごとに調査、検討し、気持ちの良い理想の駅前広場とはどういうものかを照明柱、サイン等のストリートファニチャーを主点に追い求めてきました。 ヨシモトポール(株) 鈴木幸男

●4年間という期間と労力の成果をまとめることが出来ました。この成果を基礎として「都市の顔である駅舎・駅広」が市民、観光、賑わい活性化のために活用できるものであるとともに、この成果が礎となり新しいまちづくりのさきがけになることを期待しております。研究部会事務局（udc 研究部長）加藤常雄

●Part1 完成直後に「よりインパクトの強いものに」と Part2 作成を目指し、「利用者の立場」を重視してアンケート調査に取り掛かったことを昨日のこのように思い出します。全国にモデル的な駅前広場リフォーム事例が増えることを期待しています。 研究部会事務局（元 udc 研究員 岡山市より出向）大野慶子

●まちの顔である駅前広場について、一般利用者の方々へのアンケート調査結果をもとに検証した成果です。リフォームの際に、利用者がどのように感じているかを知っていただく資料として御活用いただければ幸いです。 研究部会事務局（udc 研究員 静岡市より出向）中澤大介

【編集後記】仕事や旅行でいろんな駅に立寄ります。その時、どうしても設計者やデザイナーの視点で広場を診ている自分が居ます。これは、いわゆる職業病でしょう。研究では、私たち自身も職業的な視点を抑え、利用者になった気分で広場のあり方を探ることに取り組みました。とは言っても身に染み付いたもの、そう簡単に抑えられるものではありませんでしたが。ともあれ、都市計画、土木、建築、製造、施工、事業者等々、多彩なプロが集まった研究会ではありますが、利用者の視点で広場のあり方を探った結果がこの成果です。不具合なく広場を移動でき、ホッと落ち着くタマリ空間で寛ぐ、時には賑わいを楽しむ空間に代わる、そんな居心地が良く、使い勝手の良い、シームレスな空間が備わる駅前広場の創出に役立てば幸いです。 コーディネーター（小池環境土木デザイン事務所） 小池 寛

アーバンリフォーム研究部会
駅前広場リフォームのポイント
～あしたのまちと駅前広場のために・・・～

2007年9月発行

発行

財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター
〒102-0084 東京都千代田区二番町 12-12 BDA 二番町ビル 2階
TEL 03-3222-0981 FAX 03-3222-0986
URL <http://www.udc.or.jp>

編集協力

小池環境土木デザイン事務所
株式会社都市総合計画
